旧松山藩士雨森家所蔵書について

田中鞠衣*，綿抜豊昭**

About collection held by the Amenomori family of the former Matsuyama Domain

Marie TANAKA, Toyoaki WATANUKI

抄録

前田和子氏より、伝来の御所蔵書60点の寄贈を受けた。筑波大学附属図書館に受け入れられる予定である。本稿は、今回の寄贈書がどのようなものか明らかにしたものである。寄贈書は近代の刊本 3 点を含むが、おおかたは江戸時代に成るもので、写本49点〈断簡を含む〉、刊本11点である。寄贈書は、内容からみると、前田氏の御先祖にあたる備中松山藩雨森家旧蔵の礼法関係書37点、武術伝授巻子本 5 点、その他18点と、大まかに三つに分類できる。注目されるのは雨森家旧蔵の礼法書である。この礼法書に名前の見られる雨森茂手木（？～1895年 8 月17日没）は、禄高80石の松山藩士で、小笠原流躾方師範でもあった。嘉永 2、3 年（1849､50）頃から安政初年（1854）頃には､松山城下の石火矢丁（岡山県）に住居があった。この地で小笠原流礼法を指南したと考えられる。この寄贈書によって、江戸時代末に松山藩内で伝えられた小笠原流礼法書が明らかになった。寄贈書は、従来、具体的な内容が明らかでなかった松山藩の礼法教育の資料として、貴重なものと評価できる。

Abstract

The books ancestral collection of sixty volumes was donated by Ms. Kazuko Maeda. These books will be received by University of Tsukuba Library. This research made it clear what kind of these books is. Although the donated books include three printed books published in modern times, most of these had been published in the Edo period. And these books consist of forty-nine manuscripts including fragmentary leaves (dankan), and eleven printed books. Judging from its contents, the donated books can be roughly classified into three groups, such as thirty-seven books of manners, five volumes of scroll (kansubon) on martial arts and eighteen other books, held by the Amenomori family of the Bicchu-matsuyama Domain which is the ancestor of Maeda clan. Among these books, notable materials are books of manners. Motegi Amenomori (?-August 17, 1895) appeared in these materials was not only a feudal retainer of Matsuyama Domain with a stipend of eighty koku, but also a master of “Ogasawara-School of Etiquette”. From around the second or third year of Kaei (1849 or 1850) to around the first year of Ansei (1854), he had lived in Ishibiyacho (Okayama Prefecture) of the castle town of the Matsuyama clan. It is considered that he instructed “Ogasawara-School of Etiquette” in there. The donated materials has clarified the books of “Ogasawara-School of Etiquette” had been handed down in the Matsuyama clan at the end of the Edo period. The donated books can be recognized as valuable materials of manners education in the Matsuyama clan, which hadn't been clarified specific contents until now.

＊　筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士前期課程
Master's Program
Graduate School of Library, Information and Media Studies
University of Tsukuba
＊＊筑波大学図書館情報メディア系
Faculty of Library, Information and Media Science
University of Tsukuba

1　はじめに

前田和子氏より「御先祖より伝来の和書を研究に役立ていただきたい」とのお話があり、綿抜研究室に御寄贈いただいた。個人の研究資料としてだけでなく、公にも活用されることを願い、筑波大学附属図書館に寄贈を申し出たところ、受け入れて下さるとのことであった。

本稿では、今後の研究に利するために寄贈書の全体を示すとともに、それらがどのようなものかについて明らかにすることを目的とする。

2　寄贈書の目録

寄贈書の全体を示すため、通し番号を付して、その書名等を以下にあげる。書名は、内題を優先し、外題が内題と異なり、併記したほうがよいと判断したものは併記した。また内題がなく、外題がある場合は、それを書名とした。次に写本か刊本かの別と、装丁、冊数、縦横の大きさをあげ、奥書等がある場合はそれを付した。

寄贈書は未整理のため、便宜上、内容に注目して、大まかに「礼法関係書」(1-40)「武術免許状」(41-45)「その他」(46-60) の順にあげることにする。

1．小笠原流武家礼節目録（内題）
・写本、巻子１軸（18.1×187.2cm）
・奥書
「　　深川惣右衛門
嘉永元年
九月八日　　久敬（花押）（朱印）
雨森茂手木殿　　」
2．小笠原流礼節中免許目録（内題）
・写本、巻子１軸（18.2×327.4cm）
・奥書
「　　深川惣右衛門
嘉永元戊申年
九月八日　　久敬（花押）（朱印）
雨森茂手木殿　　」
3．式三献（内題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.3×17.2cm）、14丁
・奥書
「右一巻者献方雖為秘事依御執心深令相伝
畢努々不可有外見者也
深川増五郎
天保六年三月朔日　　久敬（花押）」
・後表紙見返しに「弘化四丁未年二月廿九日」とあり
4．女礼衣服色目之書（内題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（25.3×17.6cm）、５丁
・奥書「深川久敬」
・巻末に「弘化四丁未年三月十三日」とあり
5．婚姻褐子持筋上下　同熨斗目之図（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.4×17.1cm）、５丁
・後表紙見返しに「弘化四丁未年四月十日」とあり
6．万積方口伝（内題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.4×17.3cm）、17丁
・奥書
「右積方百番之口伝ハ水嶌ト也伝来也妄不可有外見者也
森　　平格
田村　節蔵」
・後表紙見返しに「弘化四丁未年四月十日」とあり
7．御厨子黒棚并小道具口伝（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.1×17.3cm）、17丁
・奥書「深川久敬（花押）」
・後表紙見返しに「弘化四丁未年四月廿二日」とあり
8．女礼　装束之次第　眉作之次第　註解（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.2×17.5cm）、22丁
・後表紙見返しに「弘化四丁未年七月二日」とあり
9．座敷荘厳之図（内題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.4×17.5cm）、17丁
・奥書「久敬（花押）」
・後表紙見返しに「弘化四丁未年八月廿三日」とあり
10. 諸祝儀集（内題）
・写本、袋綴２冊、仮表紙（23.4×16.6cm）、上･74丁、下・24丁
・奥書
「田村節蔵敬則（花押）
深川増五郎久敬（花押）」
・上巻後表紙見返しに「嘉永元戊申年四月十八日」とあり
・下巻後表紙見返しに「弘化戊申二月」とあり
11. 雑学集（内題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（25.0×17.4cm）、23丁
・後表紙見返しに「嘉永元戊申年三月十五日」とあり
12. 元服御式（内題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.9×17.1cm）、７丁
・後表紙見返しに「嘉永元戊申年五月十八日」とあり
13. 諸祝儀床飾口伝（内題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.9×17.0cm）、28丁
・奥書「深川増五郎（花押）」
・後表紙見返しに「嘉永元戊申年六月廿六日」とあり

14. 小笠原流礼節社約并階級（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.6×17.4cm）、6 丁
・奥書
「田村節蔵　敬（花押）
深川惣右衛門　久敬（花押）」
・後表紙見返しに「嘉永元戊申年八月九日」とあり
15. 小笠原流礼節惣書籍目録（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（25.0×17.5cm）、11丁
・後表紙見返しに「嘉永元戊申年八月九日」とあり
16. 通之次第（内題）、九書辨解　通之次第三（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（22.8×17.0cm）、51丁
・後表紙見返しに「嘉永元戊申年九月五日」とあり
17. 雑煮三献服紗料理秘伝（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（13.9×20.4 cm）、24丁
・奥書
「右雑煮三献服紗料理之仕立様
田村敬則先生之口授二して当流
之秘事なれハ申許之節可附属
之書也　仍而筐底深々蔵めて他見を
禁ず　　深川惣右衛門久敬（花押）」
・巻末に「嘉永元戊申年九月八日」とあり
18. 御厨子黒棚餝方口伝（内題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.5×17.5cm）、15丁
・後表紙見返しに「嘉永元戊申年九月十九日」とあり
19. 銚子口伝之書（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.0×17.5cm）、12丁
・奥書「深川久敬（花押）」
20. 貝合之書（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.9×17.4cm）、14丁
・奥書「深川増五郎藤原久敬」
21. 文政十二巳丑年八月廿四日廿五日南陽院様三拾三回忌御法事御客献立（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（23.9×17.5cm）、4 丁
・奥書「深川増五郎藤原久敬」
22. 御結納御祝納之御品下調伺帳（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.4×17.3cm）、7 丁
23. 結納積様之図輿貝桶受取渡之図化粧之間寝所餝之図納戸衣桁餝之図（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.5×17.3cm）、14丁
24. 御眉直御袖 / 御着帯御式（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.0×17.1cm）、9 丁
・奥書「安政五年九月六日　雨森茂手木　好長（花押）」
25. 年中嶋台押（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.5×16.9cm）、9 丁
・奥書
「右一冊秘事たりといへとも御執心深きによって
記進畢妄に外見有へからさるもの也
水嶌卜也
大竹蘭山
里見忠之進
同左馬太郎
佐藤平助
甘利鉾女
右同藩杉木氏家蔵を借受て写置者也
弘化四丁未年　　雨森茂手木
二月二日　　好長（花押）」
26. 結納之次第（内題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.5×17.3cm）、11丁
・奥書
「右巻ハ結納口伝たりといへとも初心の輩又
ハ後弟為教導記之努々不可有外見者也
水嶌卜也
大竹蘭山
里見忠之進
同左馬太郎
享和二年壬戌年　　佐藤平助
五月十四日　　甘利鉾女
右同藩杉木氏家蔵借受て写置者也
弘化四丁未年　　雨森茂手木
四月十九日　　好長（花押）」
27. 通之次第（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（27.9×21.0cm）、16丁
・奥書
「　　小笠原大膳大夫長時
同　　右近太夫貞慶
水嶋卜也之成
右此一冊者雖為秘事依御執心
深懇記進之訖努々不可有外見者也
足立八郎左衛門興基
乙部十蔵殿　　」
28. 水嶌流目録五百六拾二ヶ条　一（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.4×17.3cm）、19丁
・奥書
「水嶋卜也之成
爪生武左衛門称
大橋郷左衛門邦教
那須惣七郎陳祐
武藤甚右衛門元春」
29. 水嶌流配膳之巻　二（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（23.7×16.2cm）、25丁

30. 水嶌流配酌之巻　三（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（25.0×17.0cm）、11丁
31. 水嶌流嫁娶之巻　五（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.2×17.3cm）、24丁
32. 水嶌流元服之巻　六（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（25.0×17.5cm）、5 丁
33. 水嶌流書札之巻　七（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.3×17.3cm）、28丁
34. 水嶌流積方之巻　八終（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.5×17.2cm）、17丁
35. 九巻之書之内万請取渡之目録一巻（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.8×17.0cm）、11丁
36. 御婚礼之道具帳（外題）
・写本、折紙列帖１冊、仮表紙（12.2×17.1cm）、3 丁
37. 万引歌（内題）、諸礼万引歌（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.7×17.4cm）、20丁
38. （礼法書）断簡
・写、１紙（18.6×25.2cm）
39. 小笠原流拭藝之次第（内題）
・写、１枚（14.3×53.3cm）
・同じものが「扣」としてもう一枚あり
40. 四季草　春之部（内題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.2×16.8cm）、65丁
41. 鑓乃哥五十首不足（内題）
・写本、巻子１軸（17.9×327.5cm）
・奥書
「　　稲津次郎兵衛
延宝五丁巳暦
仲秋日　　頼次
都筑治左衛門殿
都筑治左衛門
貞享貳乙丑
六月十五日
下村弥五右衛門殿　　」
42. 必□　目録（外題）
・写本、巻子１軸（18.0×363.5cm）
・奥書
「右者任懇望染管
城畢尤他見憚之
者也
金子外記
嘉永二巳　政成（花押）（朱印）
酉年
三月日
下村嫁之介殿　　」
・内容は槍術
43. 日置弓之伝系図（内題）
・写本、巻子１軸（21.0×315.5cm）
・奥書
「　　加賀山五郎右衛門（朱印・興正）
宝永二歳
乙酉五月吉日　　（花押）（朱印・興正）
下村一学殿
右一巻者当流弓道伝来系図書也
自予父興正所伝家尊忠房大人也
而今幸用之而予亦再伝之足下
矣故書其顛末於巻尾加花押印
証如斯
堀十郎左衛門
寛保二歳
壬戌十二月吉日　　春秩（花押・朱印）
下村大蔵殿　　」
44. 神当流管見之巻（内題）
・写本、巻子１軸（17.8×315.7cm）
・奥書
「右者従定次伝受之一巻也
代々雖伝来定次之術此
一流之中興也依御悃望
悉令相伝之畢猶可被加
御工夫者也
神尾織部助　吉久
渡辺勝兵衛　良
花井庄左衛門尉　定次
桑野仲兵衛尉　春房
芦田覚之進
延宝五丁巳
仲冬之望　儀重（花押）（朱印）
下村弥五右衛門殿　　」
45. 覚（内題）
・写本、巻子１軸（17.9×92.5cm）
・奥書
「右此一巻者田光彦三郎
入道乗味工夫鍛錬之
秘書也尤誓紙之上雖不
不申候聊以他見他言有
間敷者也
下村弥五右衛門
元禄十六年　　（朱印）
未九月吉旦　忠辰（花押）
下村一学殿　　」

46. 御簱御幕御家之紋書付（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（24.6×17.3cm）、12丁
47. 立花大全（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（23.7×15.9cm）、24丁
・奥書「寛政八辰年二月十五日雨森杜陵写之」
48. 茶之湯三伝集巻之一（内題）
・刊本、袋綴１冊、仮表紙（23.0×16.1cm）、30丁
49. 官板　孫子　平津館叢書本（外題）
・刊本（嘉永５年、出雲寺万次郎）、袋綴１冊、原表紙（26.0×18.1cm）、27丁
50. 武用辨畧巻第三（内題）
・刊本、袋綴１冊、原表紙（22.3×15.7cm）、36丁
51. 書翰大成（内題）
・刊本（文政７年、河内屋平七他）、袋綴１冊、原表紙（22.5×16.0cm）、94丁
52. 三体千字文（内題）
・刊本（文化14年、須原屋伊八他）、袋綴１冊、原表紙（27.8×16.0cm）、52丁
53. 音釈十八史略（内題）
・刊本、袋綴１冊、表紙（25.8×17.7cm）、56丁
・前後数丁欠
54. 四書大全説約合参正解巻之二十（内題）
・刊本、袋綴１冊、原表紙（26.0×18.7cm）、44丁
55. 四体湊川帖（内題）
・刊本（明治26年、田中太右衛門）、袋綴１冊、原表紙（26.0×18.0cm）、22丁
56. 四体蘭亭帖（内題）
・刊本（明治26年、田中太右衛門）、袋綴１冊、原表紙（25.8×17.8cm）、21丁
57. 増評唐宋八家文読本巻四（内題）
・刊本、袋綴１冊、原表紙（22.6×15.4cm）、67丁
58. 日本政記八（外題）
・刊本（明治９年、山内五郎助他、袋綴１冊、原表紙（18.2×12.7cm）、67丁
59. 手本（外題）
・写本、袋綴１冊、仮表紙（28.5×18.5cm）、37丁
60. 書状手本（仮称）
・写本、巻子本１軸（18.9×102.2cm）
・巻頭欠

3　寄贈書について

寄贈書の内容等について述べる。便宜上、前項で付した通し番号で示す。

１～21は、雨森茂手木が深川久敬より小笠原流礼法を学習したおりに入手したものと考えられる。1、2は目録で今の免許状にあたる。３～17は、後表紙などに記された年月日から免許を授かる以前に、深川久敬のもとにあった礼法書を写したものと考えられる。

また18は、免許以後の年月日が記されている。これは中免許から次の段階「皆伝」に進みはじめたことを示すものと考えられる。

19～21は、年次が記されていないので、免許を授かる前に写されたものか、その後に写されたものかは不明である。

同じような料紙、装丁のもので、18より後の年月日が記されたものがないのは、当時の社会情勢から推察するに、何らかの事情で、継続して学ぶことができなくなったからと考えられる。

22、23は、年月日等が記されておらず、深川久敬よりのものか不明である。

24は、年月日が記されているが、深川久敬よりのものか不明である。

25～37までは、小笠原流の礼法書だが、深川久敬のものを写したのではなく、他家に伝わったものを写している。

そのうち28～34は、もともとは一連のもので、28が目録で、一巻めの「進納礼」、四巻めの「万躾」が欠本である。

35～38は、礼法書ではあるが、どのような伝来か不明である。

39は、小笠原流拭藝を披露したおりの記録である。

40は、伊勢流の礼法書である。

41～45は、下村弥五右衛門らへの武術関連の免許状である。なにゆえ雨森家に伝わったかは不明である。

46は、松山藩板倉家の家紋などを記したものである。

47、48は、華道、茶道という芸道関連書である。

50～58は、書道、漢籍といった学習テキストの刊本といえよう。

59、60は、手書きの書道手本である。

4　雨森家について

前田和子氏によると、和子氏は、雨森家14代敏逸氏のご長女で、雨森家のご先祖は備中松山藩士であったとのことである。江戸時代の雨森家のことは、前田氏ご所蔵の嘉永６年（1853）に成る「雨森同家名前」に記されている。それには

備中松山
板倉周防守殿御家中
雨森茂手木

高八拾石
目付役
近習勤

とある。寄贈された礼法書には「雨森茂手木好長」の名が見られるとともに、「雨森家」の印が押されたものがある。

松山藩領は、現在の岡山県高梁市にあたる。松山藩に関する基礎文献に、高梁市郷土資料刊行会より出版された国分胤之著『昔夢一斑』(1991年)がある。同書には、嘉永2、3年(1849、50)頃から安政初年までの松山藩の居住者があげられており、それに

石火屋丁東側(西向北ヨリ)雨森茂手木　健之進

とある。「石火屋丁」は、松山城下の武家屋敷のあった地域であり、現在もその面影をとどめる。

昭和48年(1973)の雨森敏逸氏の「調査記録」(前田家所蔵)によれば、茂手木は雨森家11代、明治28年(1895)8月17日没、享年不明、健之進は雨森家12代、茂手木より20年はやくの明治8年(1874)没、享年34歳であった。

また、前掲『昔夢一斑』に「諸流師範家」として「小笠原流躾方雨森茂手木」とある。今回の寄贈書の「1. 小笠原流礼節中免許」「2. 小笠原流武家礼節」の二巻は、嘉永1年(1848)9月8日付けの深川惣右衛門久敬より雨森茂手木への免許状である。

仮に、子息健之進が茂手木20歳前後の子と考えると、茂手木は文政年間初め頃に生まれたことになり、「中免許」を受けた嘉永1年は30歳前後となる。小笠原流礼法の相伝は、おおまかには、初伝、中伝、皆伝の三段階に分かれている。個人差のあることだが、中伝免許を受けるには適当な年齢といえようか。おそらくはこれを契機に「礼節師範」として認められるようになったと考えられる。

茂手木に免許を与えた深川惣右衛門(増五郎)久敬については、「17. 雑煮三献服紗料理秘伝」に「先生」と記されている田村節蔵敬則に師事したこと以外は不明である。田村敬則は越中富山藩士で礼節方などを勤め、小笠原流の礼法家であった。

5　おわりに

高梁市に関係する「歴史人物」に関する刊行物で、近年のものは、まず高梁市教育委員会編『高梁市の歴史人物誌』(2013年)があげられる。そこには雨森茂手木は取り上げられていない。すなわち高梁市において特筆にあたいする人物ではないと考えられている。その意味では、今回の寄贈書は、この土地の有名人が所持していた、といった伝来に価値があるものではない。

しかし、松山藩で、どのような礼節が指導されていたかを知る上では、具体的内容が記された礼法書は価値のある資料である。

本稿は、全体を示し、礼法研究資料としての活用がはかられることを期し、「研究ノート」として報告した。

今後の研究課題としては、松山藩での礼節指南がどのように行われたかを明らかにするとともに、個々の礼法書について他の伝本と比較するなどして、雨森茂手木および松山藩独自なものがあるかを明らかにすることがあげられる。

謝辞

末尾ながら、貴重な御蔵書をご寄贈いただいた前田和子氏に、厚く御礼申し上げます。また松山藩および高梁市につきましての文献等をご教示くださいました岡山県立図書館に、厚く御礼申し上げます。

(平成29年9月27日受付)
(平成30年1月5日採録)